

令和5年度 大野町立北小学校通信



# 輝くひとみ

3月号

## 「残り姿」

美しい日本語の表現に「残り姿」という言葉があります。「終わったあとやその場からいなくなったあとの姿」を感じることを言います。例えば、学校では、子どもたちが帰ったあとの教室で、机やロッカーがきちんと整頓されており、黒板が完璧に掃除されていると「今日も、しっかりと学校生活を過ごし、学習ができていたんだなあ。」と気持ちのよい「残り姿」を感じることができます。

もっと深く大きい「残り姿」もあります。それは、卒業式や修了式が終わったあとの学校の中です。掲示物が外され、荷物もなく、掃除が行き届いた教室は、すっきりとした誰もいない空間ですが、教壇に立つとさまざまな「残り姿」を感じることができます。この1年間に起こったさまざまな出来事が思い起こされ、あ那时的「笑顔」、あ那时的「涙」がよみがえります。「何もない教室」ですが、今までそこにいた子どもたちの「残り姿」があります。

さらに、学校にはとても深く大きい「残り姿」があります。それは、卒業して10年後、20年後に学校を訪れたときに感じる「残り姿」です。それは、懐かしい校舎を見たときに「思い出」としてよみがえってくると思います。

このように、毎日の「残り姿」が積み重なって「校風」となり、「校風」が積み重なって「伝統」になっていきます。

さて、1年間の締めくくりの時期となりました。北小学校では、今年度も児童会を中心に、『アイくんの3行動』である「しんけん授業」「先どりあいさつ」「もくもく掃除」の姿を高めようと活動してきました。また、仲間を大切にする「ぼかぼか言葉」や「よいこと見つけ」に取り組んできました。3学期に入り、子どもたちは、1・2学期にできたことをやりきるための取組をしています。6年生が、手本を見せたり、取組表を作って啓発活動を続けてくれたりしています。さて、どんな「残り姿」を残すことができるでしょうか。

どうぞ、家庭や園でも、お子様が自信をもって進学・進級できるように、自分を高めようとする姿を応援してあげてください。よろしくお願いたします。